

平成二十九年一月八日、六十七回卒生が成人式を迎えた。前日七日には、原町区のステーションプラザホテルにおいて同窓会が開催され、百人ほどの参加者が集い旧交を温めました。当時の生徒会長・朝倉悠太さんからその様子と母校に対する思いをいただきました。

同じ学び舎で学び、育った仲間達と同窓会で久しぶりの再開。変わった人、あまり変わらない人、様々な人がいたけれど、根っここの部分はきっと変わってないんだなと思える空間であつた。皆で思い出話に花を咲かせていましたあの空間はあの瞬間だけ

平成二十九年一月八日、六十七回卒生が成人式を迎えた。前日七日には、原町区のステーションプラザホテルにおいて同窓会が開催され、百人ほど

の原高だけはいつまでも変わらない、私達の帰つて来る場所として存在して欲しく、また会える日まで。お元気で

原高そのもののように思えた。そんな懐かしい空気を噛み締め、また次いつ会えるか分からぬ寂しさから、別れを惜しんだ。

これから先、成人として社会に出る者となり、より一層の成長、変化は必然であろうが、この原高だけはいつまでも変わらない、私達の帰つて来る場所として存在して欲しく、また会える日まで。お元気で

平成二十八年七月二十五日に本校同窓生遠藤吉樹さん(二十四回卒)が来校されました。

遠藤さんは、同窓生の古室理さん(三回卒)に加え、小室さんの御友人の松丸陽子さん、千野三枝子さん、渡辺正晴さん、渡辺敏子さん(市川市)、田村恵子さん(船橋市)、染野久美子さん(取手市)からの寄付金を届けて下さいました。

また同じく七月に、渡辺広幸さん(十二回卒)からもご寄付を頂きました。ありがとうございました。

第二部の懇親会は、小沢一男(二十回卒)の司会から全出席者の紹介の後、古室理顧問(三回卒)の乾杯の後に歓談に入り、再会を喜び合う人、暫くぶりに合う友人、先輩後輩達と尽きない話題で時のたつのも忘れ盛り上りました。宴も闇になつたところで、門馬昭氏(十六回卒)の尺八、只野廣美氏の

六年前の東日本大震災以降原町高校小高支部は完全に崩壊状態であります。津波被害だけでも前代未聞の大変事だつたのですが、その上に福島第一原発の三基もの原子炉の大爆発、炉心溶融事故で放射能が広範囲に飛散二十km以内に立たない。チームも学校も同じで全員で同じ高みを目指すという意味が込められています。初日の仮装行列、翌日の一般公開と、各クラス、生徒会、文化部、そしてPTAの皆さんのが文化祭を盛り上げました。

渡辺さんが取り上げられた施政方針演説は首相官邸のサイトにて閲覧が可能で

渡辺一成前会長（十四回卒）
ありがとうございました。



退任挨拶

前会長 渡辺一成



昨年八月六日にロイヤルホテル丸屋にて、平成二十八年度同窓会総会が開かれました。総会にて、長年同窓会長を務められた渡辺一成さんのご勇退と新同窓会長として杉昭重さん就任が提案され承認されました。渡辺前会長は長きにわたり同窓会を導き、東日本大震災という未曾有の危機の中でも、原町高校をしっかりと支えてこられました。渡辺前会長の挨拶を紹介いたします。

昨年八月の総会において会長職を後輩の杉昭重君へ引き継ぎました。

平成二四年に門馬直孝先輩から引き継いで十四年間会長職を努めましたが、この間会員の皆様をはじめ当時の在校生や保護者の皆様から賜りましたご支援に心から感謝を申し上げます。

平成二十一年の学校創立七十周年記念事業をはじめました。まさに存亡の危機に立たされたといつても過言ではありませんでした。そうした時に同窓会東京支部の皆さんから四百万円という多額の義援金を頂いた時は本当に感激しました。

夏の高校野球県大会で全校生が開成山に集い丸となつて応援できたのもそのお金があつたからです。

いま本校は二学年四クラス百六十名という中規模校になりましたが、それでも震災前に負けない活気あふれる姿に感激しています。休校が転校し生徒数が激減しました。まさに存亡の危機に立たされたといつても過言ではありませんでした。ほんとうに立派な高校になりました。そこで、このままなりません。支部の資料も全部紹介を盛り上げてくれました。

第一部の総会は川鍋裕夫氏(十七回卒)の司会で始まり、最初に出席者全員でこの年に亡くなられた方々への冥福を祈る黙祷をいたしました。次に来賓の方・遠隔地からの方・避難されている方・新会員(学生)の紹介の後、紺野政弘(十一回卒)支部長の挨拶がありました。議事は久米文二氏(十九回卒)からの活動報告、遠藤吉樹(二十四回卒)からの監査報告がありました。その後、来賓の方々の挨拶が続き、現原高の佐川尚史校長、杉昭重現同窓会会長(二十二回卒)、渡辺一成前窓会会長(十四回卒)の挨拶と続きました。最後に、草野圭二同窓会事務局長(三十九回卒)から原高の現状、生徒たちの進路、部活動等の活動についての報告があり、第一部が終了いたしました。

第二部の懇親会は、小沢一男(二十回卒)の司会から全出席者の紹介の後、古室理顧問(三回卒)の乾杯の後に歓談に入り、再会を喜び合う人、暫くぶりに合う友人、先輩後輩達と尽きない話題で時のたつのも忘れて盛り上りました。宴も闇になつたところで、門馬昭氏(十六回卒)の尺八、只野廣美氏(十六回卒)による「輪」の写真

【東京支部総会】
支部だより

～ふるさとの復興、発展を願つて～

前会長 渡辺一成



祝に第三十三回原町高等学校同窓会東京支部総会・懇親会が上野精養軒で開催されました。開催までの役員の労をねぎらうかのように多数(百六十名予定)の方に出席して頂きました。今回は、同窓会本部事務局長草野圭一先生の教え子十三名の学生が出席し、総会・懇親会を盛り上げてくれました。

いま本校は二学年四クラス百六十名という中規模校になりましたが、それでも震災前に負けない活気あふれる姿に感激しています。休校が転校し生徒数が激減しました。まさに存亡の危機に立たされたといつても過言ではありませんでした。ほんとうに立派な高校になりました。そこで、このままなりません。支部の資料も全部紹介を盛り上げてくれました。

第一部の総会は川鍋裕夫氏(十七回卒)の司会で始まり、最初に出席者全員でこの年に亡くなられた方々への冥福を祈る黙祷をいたしました。次に来賓の方・遠隔地からの方・避難されている方・新会員(学生)の紹介の後、紺野政弘(十一回卒)支部長の挨拶がありました。議事は久米文二氏(十九回卒)からの活動報告、遠藤吉樹(二十四回卒)からの監査報告がありました。その後、来賓の方々の挨拶が続き、現原高の佐川尚史校長、杉昭重現同窓会会長(二十二回卒)、渡辺一成前窓会会長(十四回卒)の挨拶と続きました。最後に、草野圭二同窓会事務局長(三十九回卒)から原高の現状、生徒たちの進路、部活動等の活動についての報告があり、第一部が終了いたしました。

第二部の懇親会は、小沢一男(二十回卒)の司会から全出席者の紹介の後、古室理顧問(三回卒)の乾杯の後に歓談に入り、再会を喜び合う人、暫くぶりに合う友人、先輩後輩達と尽きない話題で時のたつのも忘れて盛り上りました。宴も闇になつたところで、門馬昭氏(十六回卒)の尺八、只野廣美氏(十六回卒)による「輪」の写真

首相の施政方針演説に取り上げられる

公開文化祭「柏曜祭」開催

母校近況



三味線、門馬るみ子氏の離子方により、相馬清志氏(湊清一)十二回卒の相馬民謡相馬氏リードによる全員参加の盆踊り、若い同窓生のリードによる校歌の大合唱、会場は最高の盛り上がりをみせました。最後に西内利幸事務局(十九回卒)から、「ふるさとの復興、発展を祈りつつ、閉会の挨拶で、の取り合える役員が集まり、今後の支部の再興に向けて話し合いました。支部長の西内慎介さんは高齢で、これ以上支部長の役目を果たすことは困難という申し出がありました。ほとんどの支部会員の現況が不明であり、支部総会を開くこともままなりません。支部の資料もそのままなりません。支部の資料も散逸してしまっております。まずは支部総会を開催できるまでを目標に、小高の復興状況を見つめながら、やって行こうと見つけながら、やつて行こうとありました。若い同窓生の多くは小高区以外、県内外に転居の意向も強くあります。

当面は小高支部総会の開催に向けて努力していくつもりであります。私はその間の暫定的な支部長ということです。正当な支部長が決まるまで暫く時間をいただきたいと思っております。

小高支部長 鈴木清延(第十八回卒)

平成二十九年一月二十日、第百九十三回国会における安倍内閣総理大臣施政方針演説にて、本校の同窓生である渡辺光貴さんが取り上げられました。小河安倍首相は平成二十八年十二月十日に常磐線浜吉田駅で、渡辺さんが勤務する株式会社福島県知事、桜井勝延南相馬市長(二十六回卒)も臨席しました。相馬間の運転再開式典に来県し、渡辺さんが勤務する株式会社ワ精密を訪問しました。

現在、南相馬市では福島・国際研究産業都市(イノベーションコースト)構想のロボットテストフィールド、国際産学官協同利用施設の整備が進められています。災害対応廃炉対策ロボットの研究をはじめとして、浜通りのロボット産業の発展

の小高区住民は全員地区外避難を強いられました。家族すらもバラバラに全国に避難したような状況でした。

去年七月十二日に小高区の校歌の大合唱、会場は最高の盛り上がりをみせました。最後に西内利幸事務局(十九回卒)から、「ふるさとの復興、発展を祈りつつ、閉会の挨拶で、の取り合える役員が集まり、今後の支部の再興に向けて話し合いました。支部長の西内慎介さんは高齢で、これ以上支部長の役目を果たすことは困難という申し出がありました。ほとんどの支部会員の現況が不明であり、支部総会を開くこともままなりません。支部の資料もそのままなりません。支部の資料も散逸してしまっております。まずは支部総会を開催できるまでを目標に、小高の復興状況を見つめながら、やつて行こうと見つけながら、やつて行こうとありました。若い同窓生の多くは小高区以外、県内外に転居の意向も強くあります。

当面は小高支部総会の開催に向けて努力していくつもりであります。私はその間の暫定的な支部長ということです。正当な支部長が決まるまで暫く時間をいただきたいと思っております。

小高支部長 鈴木清延(第十八回卒)

平成二十九年一月二十日、第百九十三回国会における安倍内閣総理大臣施政方針演説にて、本校の同窓生である渡辺光貴さんが取り上げられました。小河安倍首相は平成二十八年十二月十日に常磐線浜吉田駅で、渡辺さんが勤務する株式会社福島県知事、桜井勝延南相馬市長(二十六回卒)も臨席しました。相馬間の運転再開式典に来県し、渡辺さんが勤務する株式会社ワ精密を訪問しました。

現在、南相馬市では福島・国際研究産業都市(イノベーションコースト)構想のロボットテストフィールド、国際産学官協同利用施設の整備が進められています。災害対応廃炉対策ロボットの研究をはじめとして、浜通りのロボット産業の発展

につながるものと期待されています。

渡辺さんは、福島大学や他の企業と提携し水中ロボットの開発に取り組んできました。小型で用途別にモジュールの組み合わせが可能なのが特徴です。津波のみならず様々な水害災害や水難事故で行方不明者や遺留品の探索湖の底のサンプリング等での活躍が期待されます。

去年七月十二日に小高区の校歌の大合唱、会場は最高の盛り上がりをみせました。最後に西内利幸事務局(十九回卒)から、「ふるさとの復興、発展を祈りつつ、閉会の挨拶で、の取り合える役員が集まり、今後の支部の再興に向けて話し合いました。支部長の西内慎介さんは高齢で、これ以上支部長の役目を果たすことは困難と

いう申し出がありました。ほとんどの支部会員の現況が不明であり、支部総会を開くこともままなりません。支部の資料もそのままなりません。支部の資料も散逸してしまっております。まずは支部総会を開催できるまでを目標に、小高の復興状況を見つめながら、やつて行こうと見つけながら、やつて行こうとありました。若い同窓生の多くは小高区以外、県内外に転居の意向も強くあります。

当面は小高支部総会の開催に向けて努力していくつもりであります。私はその間の暫定的な支部長ということです。正当な支部長が決まるまで暫く時間をいただきたいと思っております。

小高支部長 鈴木清延(第十八回卒)

平成二十九年一月二十日、第百九十三回国会における安倍内閣総理大臣施政方針演説にて、本校の同窓生である渡辺光貴さんが取り上げられました。小河安倍首相は平成二十八年十二月十日に常磐線浜吉田駅で、渡辺さんが勤務する株式会社福島県知事、桜井勝延南相馬市長(二十六回卒)も臨席しました。相馬間の運転再開式典に来県し、渡辺さんが勤務する株式会社ワ精密を訪問しました。

現在、南相馬市では福島・国際研究産業都市(イノベーションコースト)構想のロボットテストフィールド、国際産学官協同利用施設の整備が進められています。災害対応廃炉対策ロボットの研究をはじめとして、浜通りのロボット産業の発展

につながるものと期待されています。

渡辺さんは、福島大学や他の企業と提携し水中ロボットの開発に取り組んできました。小型で用途別にモジュールの組み合わせが可能なのが特徴です。津波のみならず様々な水害災害や水難事故で行方不明者や遺留品の探索湖の底のサンプリング等での活躍が期待されます。

去年七月十二日に小高区の校歌の大合唱、会場は最高の盛り上がりをみせました。最後に西内利幸事務局(十九回卒)から、「ふるさとの復興、発展を祈りつつ、閉会の挨拶で、の取り合える役員が集まり、今後の支部の再興に向けて話し合いました。支部長の西内慎介さんは高齢で、これ以上支部長の役目を果たすことは困難と

いう申し出がありました。ほとんどの支部会員の現況が不明であり、支部総会を開くこともままなりません。支部の資料もそのままなりません。支部の資料も散逸してしまっております。まずは支部総会を開催できるまでを目標に、小高の復興状況を見つめながら、やつて行こうと見つけながら、やつて行こうとありました。若い同窓生の多くは小高区以外、県内外に転居の意向も強くあります。

当面は小高支部総会の開催に向けて努力していくつもりであります。私はその間の暫定的な支部長ということです。正当な支部長が決まるまで暫く時間をいただきたいと思っております。

小高支部長 鈴木清延(第十八回卒)

平成二十九年一月二十日、第百九十三回国会における安倍内閣総理大臣施政方針演説にて、本校の同窓生である渡辺光貴さんが取り上げられました。小河安倍首相は平成二十八年十二月十日に常磐線浜吉田駅で、渡辺さんが勤務する株式会社福島県知事、桜井勝延南相馬市長(二十六回卒)も臨席しました。相馬間の運転再開式典に来県し、渡辺さんが勤務する株式会社ワ精密を訪問しました。

現在、南相馬市では福島・国際研究産業都市(イノベーションコースト)構想のロボットテストフィールド、国際産学官協同利用施設の整備が進められています。災害対応廃炉対策ロボットの研究をはじめとして、浜通りのロボット産業の発展

につながるものと期待されています。

渡辺さんは、福島大学や他の企業と提携し水中ロボットの開発に取り組んできました。小型で用途別にモジュールの組み合わせが可能なのが特徴です。津波のみならず様々な水害災害や水難事故で行方不明者や遺留品の探索湖の底のサンプリング等での活躍が期待されます。

去年七月十二日に小高区の校歌の大合唱、会場は最高の盛り上がりをみせました。最後に西内利幸事務局(十九回卒)から、「ふるさとの復興、発展を祈りつつ、閉会の挨拶で、の取り合える役員が集まり、今後の支部の再興に向けて話し合いました。支部長の西内慎介さんは高齢で、これ以上支部長の役目を果たすことは困難と

いう申し出がありました。ほとんどの支部会員の現況が不明であり、支部総会を開くこともままなりません。支部の資料もそのままなりません。支部の資料も散逸してしまっております。まずは支部総会を開催できるまでを目標に、小高の復興状況を見つめながら、やつて行こうと見つけながら、やつて行こうとありました。若い同窓生の多くは小高区以外、県内外に転居の意向も強くあります。

当面は小高支部総会の開催に向けて努力していくつもりであります。私はその間の暫定的な支部長ということです。正当な支部長が決まるまで暫く時間をいただきたいと思っております。

小高支部長 鈴木清延(第十八回卒)

平成二十九年一月二十日、第百九十三回国会における安倍内閣総理大臣施政方針演説にて、本校の同窓生である渡辺光貴さんが取り上げられました。小河安倍首相は平成二十八年十二月十日に常磐線浜吉田駅で、渡辺さんが勤務する株式会社福島県知事、桜井勝延南相馬市長(二十六回卒)も臨席しました。相馬間の運転再開式典に来県し、渡辺さんが勤務する株式会社ワ精密を訪問しました。

現在、南相馬市では福島・国際研究産業都市(イノベーションコースト)構想のロボットテストフィールド、国際産学官協同利用施設の整備が進められています。災害対応廃炉対策ロボットの研究をはじめとして、浜通りのロボット産業の発展

につながるものと期待されています。

渡辺さんは、福島大学や他の企業と提携し水中ロボットの開発に取り組んできました。小型で用途別にモジュールの組み合わせが可能なのが特徴です。津波のみならず様々な水害災害や水難事故で行方不明者や遺留品の探索湖の底のサンプリング等での活躍が期待されます。

去年七月十二日に小高区の校歌の大合唱、会場は最高の盛り上がりをみせました。最後に西内利幸事務局(十九回卒)から、「ふるさとの復興、発展を祈りつつ、閉会の挨拶で、の取り合える役員が集まり、今後の支部の再興に向けて話し合いました。支部長の西内慎介さんは高齢で、これ以上支部長の役目を果たすことは困難と

いう申し出がありました。ほとんどの支部会員の現況が不明であり、支部総会を開くこともままなりません。支部の資料もそのままなりません。支部の資料も散逸してしまっております。まずは支部総会を開催できるまでを目標に、小高の復興状況を見つめながら、やつて行こうと見つけながら、やつて行こうとありました。若い同窓生の多くは小高区以外、県内外に転居の意向も強くあります。

当面は小高支部総会の開催に向けて努力していくつもりであります。私はその間の暫定的な支部長ということです。正当な支部長が決まるまで暫く時間をいただきたいと思っております。

小高支部長 鈴木清延(第十八回卒)

平成二十九年一月二十日、第百九十三回国会における安倍内閣総理大臣施政方針演説にて、本校の同窓生である渡辺光貴さんが取り上げられました。小河安倍首相は平成二十八年十二月十日に常磐線浜吉田駅で、渡辺さんが勤務する株式会社福島県知事、桜井勝延南相馬市長(二十六回卒)も臨席しました。相馬間の運転再開式典に来県し、渡辺さんが勤務する株式会社ワ精密を訪問しました。

現在、南相馬市では福島・国際研究産業都市(イノベーションコースト)構想のロボットテストフィールド、国際産学官協同利用施設の整備が進められています。災害対応廃炉対策ロボットの研究をはじめとして、浜通りのロボット産業の発展

につながるものと期待されています。

渡辺さんは、福島大学や他の企業と提携し水中ロボットの開発に取り組んできました。小型で用途別にモジュールの組み合わせが可能なのが特徴です。津波のみならず様々な水害災害や水難事故で行方不明者や遺留品の探索湖の底のサンプリング等での活躍が期待されます。

去年七月十二日に小高区の校歌の大合唱、会場は最高の盛り上がりをみせました。最後に西内利幸事務局(十九回卒)から、「ふるさとの復興、発展を祈りつつ、閉会の挨拶で、の取り合える